

第7回愛媛クリニカルパス研究会

これからのクリニカルパスを考える

平成21年7月11日(土) 12:00~17:00

会場：西条市総合文化会館（大ホール）

西条市神拝甲79番地4

第7回当番世話人

住友別子病院

鈴木誠祐

竹林秀樹

永易恵子

ご挨拶

この度、第7回愛媛クリニカルパス研究会を当院がお世話させていただき、開催する運びになりました。南予、中予の遠路から参加される方々の交通面の利便性等を考慮し、西条市の総合文化会館を会場とさせていただきました。まずは、多数の御参加を頂きましたことを御礼申し上げます。

当院におきましても1998年にクリニカルパス委員会を設置し、活動してまいりました。現在では約80件のパスが稼働しておりますが、治療の標準化がうまくいかず、苦勞してパスを作成しながらも利用できていない診療科もあり、診療科別の温度差が大きいのが現状です。また、これまでの紙ベースのパスを今月から稼働する電子カルテシステムへ搭載することにより、記録・オーダーの効率化および情報の共有・一元化を図ろうと取り組んでいるところです。

現在のパスを取り巻く医療環境は、病院の機能分化やDPC、電子カルテなど日進月歩で目まぐるしく変化しており、その環境に適応すべくパスを進化させていく必要があります。病院の機能分化が進むなか地域連携パスが地域医療の質の向上に大きな役割を担うものと思われまますし、病院経営の面からも電子カルテ、DPCへパスを効率よく組み込んで行くことも求められています。

このような観点から今回の研究会のメインテーマを「これからのクリニカルパスを考える」とし、特別講演でNTT東日本関東病院 副院長 小西敏郎先生に『IT時代のクリニカルパス』と題してご講演いただきます。また、シンポジウムでもそれぞれ、メインテーマに沿った内容で発表されます。活発な討論をしていただき、今後のパスの活用に役立てていただけましたら幸いです。

最後に、今回当番世話人として職員一同、精一杯お世話させていただきますが、何かと至らぬ点もあろうかと思ひます。御容赦いただけますようお願いいたします。

住友別子病院 副院長 鈴木誠祐

プログラム

12:00～	ポスターセッション(パス展示) ※12時～16時・大ホール ロビーにて
13:00～13:05	開会の挨拶 住友別子病院 副院長 鈴木誠祐
13:05～14:05	【一般演題(パス発表)】 座長 住友別子病院 看護師長 守屋昭子 ①「電子カルテ導入後 化学療法パスの当院での現状と方向性」 済生会西条病院 看護部 高橋美鈴 ②「脳卒中地域連携パスの運用状況～1年間の運用実績より～」 松山赤十字病院 急性期リハビリテーション第一係長 山下淳一 ③「地域医療におけるクリニカルパスとは」 (DPCをふまえた胃部分切除のパス作成を試みて) 住友別子病院 看護師 佐伯 千加 ④「手術中看護クリニカルパス～アウトカム志向型パス～」 四国がんセンター 手術室看護師 丹 由貴子 ⑤「誤嚥性肺炎に対するチーム医療とクリニカルパス」 済生会松山病院 内科医師 黒田 太良
14:05～15:25	【シンポジウム】 テーマ:これからのクリニカルパスを考える 座長 住友別子病院 泌尿器科長 柴田薫行 四国がんセンター 副看護師長 野田奈々子 ①「DPC対応がん化学療法パスにおけるコメディカルの役割」 松山赤十字病院 薬剤管理指導課長 村上通康 ②「退院調整連携から地域連携パスを考える～看護師の役割とは～」 四国がんセンター 看護師 重岡 清香 ③「継続看護に活かせるクリニカルパス パクリタキセル・ゲムシタピンのパスを用いて」 住友別子病院 看護師 和田桂子 ④「当院におけるクリニカルパスの運用と患者満足度について」 市立宇和島病院 副看護部長 山本幸代 ⑤「オーダーリングを使用した外来パスについて」 済生会松山病院 事務次長 林田哲也
15:25～15:30	事務局報告 次年度世話人施設(済生会松山病院)挨拶 — 休憩 —
15:50～16:50	【特別講演】 座長 住友別子病院 外科長 花岡俊仁 『IT化時代のクリニカルパス』 NTT 東日本関東病院 副院長(外科部長 治験センター長) 小西 敏郎
16:50	閉会の挨拶 住友別子病院 看護師長(クリニカルパス委員会副委員長) 永易恵子

駐車場のご案内



◎駐車場ののご案内

- ・第1駐車場(⇒図①)に180台駐車可能
- ・第2駐車場(⇒図②)に50台駐車可能
- * 第2駐車場は信号機が目印になります。会場から歩いてもわずかです。

(注意)

駐車場収納可能台数は限りがございますので、お車でお越しの際は、できる限り乗り合わせで宜しくお願い致します。
又、駐車場以外のスペースには車を停めないようにお願い致します。

◎タクシーのご案内

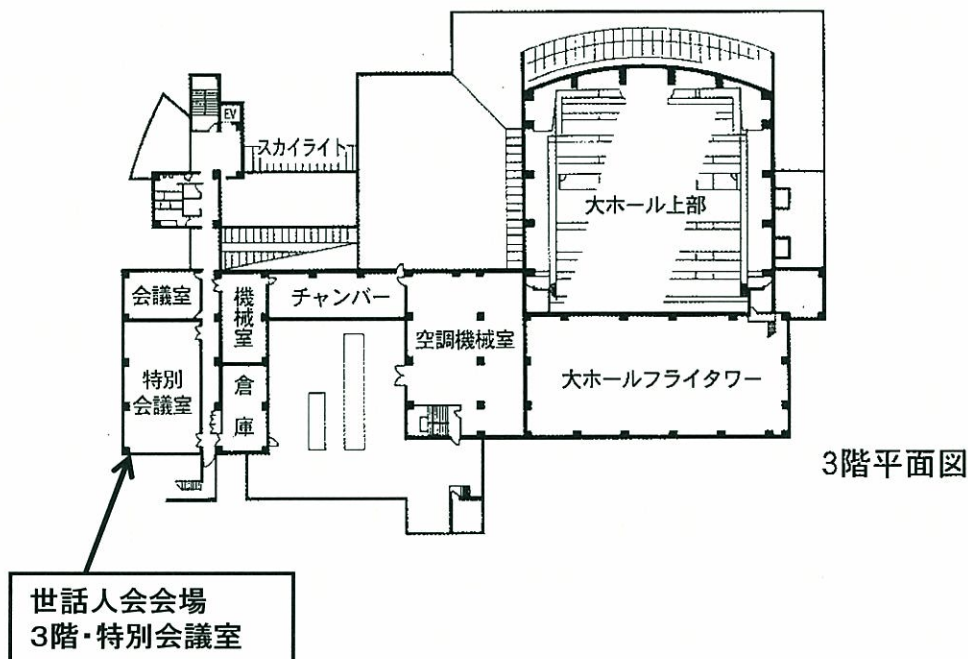
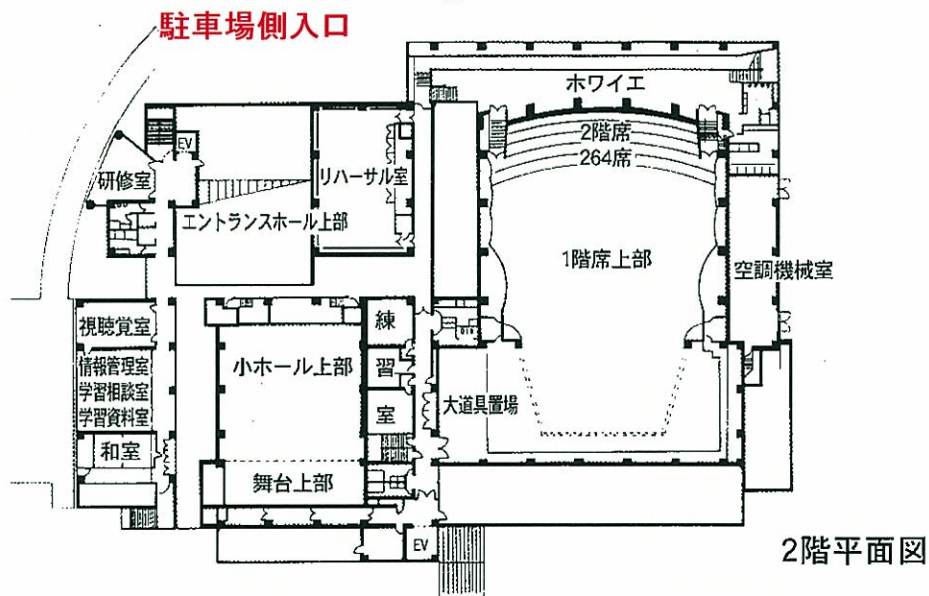
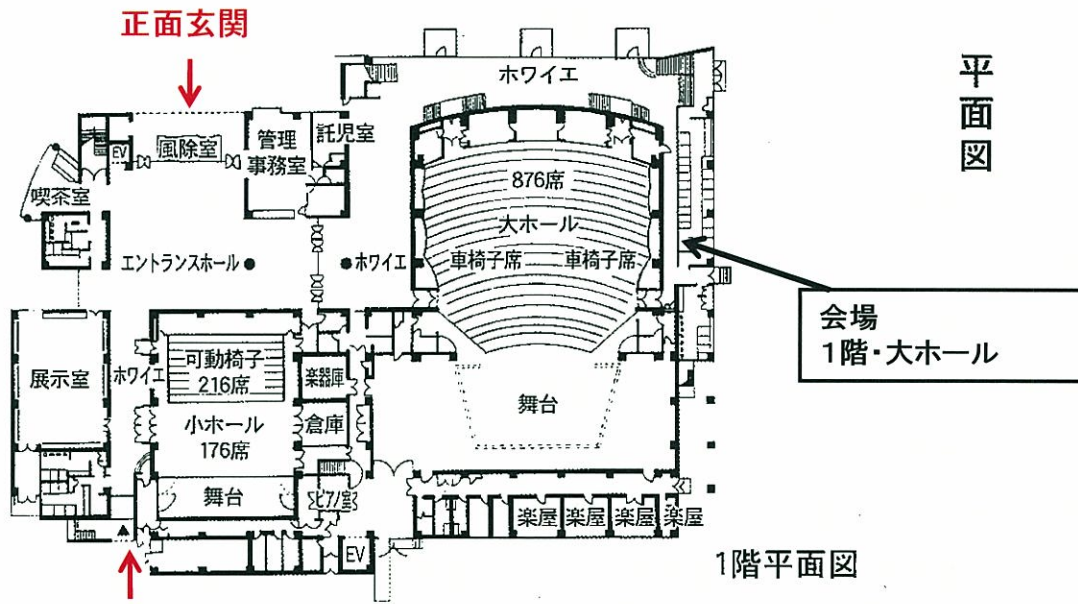
石鎚タクシー:0897560809

瀬戸タクシー:0897561130

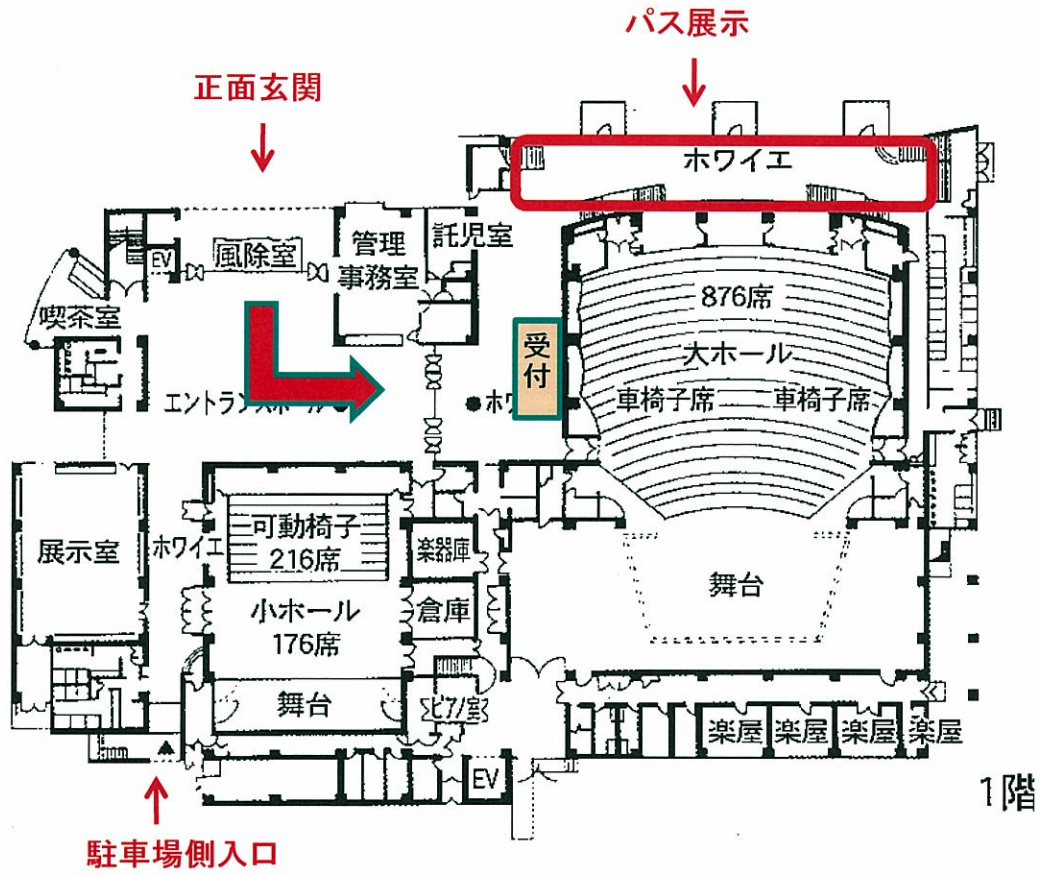
渡部タクシー:0897560222

会場内のご案内

平面図



受付・パス発表



特別講演

「IT化時代のクリニカルパス」

NTT東日本関東病院 副院長（外科部長 治験センター長）

小西 敏郎

NTT東日本関東病院では1997年からまず外科で胃癌手術にクリニカルパス（以下パス）を導入した。そして2000年の新病院オープンから完全なペーパーレス・フィルムレスの電子カルテシステムを導入し、以後、紙パスから電子カルテのパスに漸次移行してきた。また2008年2月から電子カルテをバージョンアップし、電子パスの機能も多彩となり、臨床現場でより使いやすいように改善された。現在では院内全体で160種以上の電子パスが使われ、全入院患者の約6割が電子カルテのパスにより診療を受けている。そこで、外科で使用している「ソケイヘルニアのお好みメニュー方式のパス」や「術後15日で退院する食道癌手術のパス」、アルゴリズムで選択する「急性虫垂炎手術患者のパス」などを例にして、短縮する在院期間のなかで、患者中心のチーム医療を推進し、安全で質の高い医療を実践するにはいかに電子カルテと電子パスが重要か、また問題点は何か考えてみたい。

~NOTE~

一般演題（パス発表）

座長：住友別子病院 看護師長 守谷昭子

①「電子カルテ導入後 化学療法パスの当院での現状と方向性」

済生会西条病院 看護部 高橋美鈴

②「脳卒中地域連携パスの運用状況～1年間の運用実績より～」

松山赤十字病院 急性期リハビリテーション第一係長 山下淳一

③「地域医療におけるクリニカルパスとは」

(DPCをふまえた胃部分切除のパス作成を試みて)

住友別子病院 看護師 佐伯 千加

④「手術中看護クリニカルパス～アウトカム志向型パス～」

四国がんセンター 手術室看護師 丹 由貴子

⑤「誤嚥性肺炎に対するチーム医療とクリニカルパス」

済生会松山病院 内科医師 黒田 太良

演題発表形式

8分：口演

2分：質疑応答

「電子カルテ導入後 化学療法パスの当院での現状と方向性」

済生会西条病院 看護部 高橋美鈴

共同演者（以下7名）

副院長 石井 博

看護部 二宮鯉江子

曾我部 都

高橋美千代

横畑加代子

木村 好子

大仲 道子

当院では、H15年からクリニカルパスを導入し77種類のパスを採用している。H20年から安全の確保と日々のアウトカム達成を目的とした化学療法パスを作成してきた。H21年2月からの電子カルテオーダリングシステム導入後は、情報の共有や医療安全の強化の利点はあるが、現状ではパスの利用目的を達成できず紙パス運用している。今後も化学療法紙パスを充実させていく予定である。化学療法パスの在り方を検討したので報告する。

「脳卒中地域連携パスの運用状況－1年間の運用実績より－」

松山赤十字病院 リハビリテーション科
山下 淳一・定松 修一
同 脳神経外科
曾我部 貴士 (MD)

【目的】当院では、急性期病院から回復期病院へのシームレスな治療を実践するために、平成18年6月より、回復期病棟を有する2病院と脳卒中リハビリ用連携パスの運用を試験的に開始し、平成20年4月から、7つの連携病院と正式に脳卒中地域連携診療計画書（以下、連携パス）の運用を開始した。今回は、平成20年4月から平成21年3月の1年間に、脳外科・神経内科より紹介され、リハビリを施行した患者299名の内、連携パス対象外疾患や死亡退院を除外した219名を対象として、連携パスの運用状況について調査したので報告する。

「地域医療におけるクリニカルパスとは」

(D P C をふまえた胃部分切除のパス作成を試みて)

住友別子病院 看護師 佐伯 千加

住友別子病院は、地域医療の中核としての役割を果たしてきた。平成20年度からは D P C 調査病院としての取り組みも開始している。

当外科病棟では、平成16年度よりクリニカルパスの作成に取り組んできたが、胃切除術のパスに関してはオールイン化に至っていない。この機会に「地域医療を担っている当院でD P Cを踏まえたパスがどのように作成できるか」を考え胃部分切除術のオールインパスの作成を試みたのでこれを報告する。

「手術中看護クリニカルパス～アウトカム志向型パス～」

四国がんセンター 手術室看護師 丹 由貴子

当手術室のクリニカルパス（以下パス）作成は、2002年よりデイスージェリーパスを先駆け、比較的短時間で終了し標準的な経過をたどるレーザー、TUR、LMSなどの術式別パスを作成し、運用している。2005年からは麻酔記録が電子化されたことから、麻酔記録との重複記載を省き、患者状態に基づいた評価ができるアウトカム志向パス作成に取り組んできた。今回、麻酔別にパスを作成したので、現状と今後の課題について報告する。

「誤嚥性肺炎に対するチーム医療とクリニカルパス」

済生会松山病院
内科医師 黒田 太良

近年の高齢化に伴い誤嚥性肺炎を発症する患者が増加し、死亡原因の大きな要因の1つとなっている。高齢者は種々の疾患を有するだけでなく、嚥下機能や免疫力の低下、耐性菌の問題など、数多くの問題を有している。退院後の受け入れ施設の減少も手伝い、入院期間の延長の原因となっている。さらに、老人介護保険施設などからの救急搬送の増加により、救急病院の疲弊も目立ってきている。誤嚥性肺炎の治療には薬物療法だけでなく、誤嚥再発防止に向けたリハビリテーションや退院後のケアなど様々な職種がうまく連携をとりあう必要がある。今回われわれは、これまで主治医が1人で抱え込んできた種々の問題点を解決すべく、増加する誤嚥性肺炎に対するチーム医療を目的としたクリニカルパスを作成した。今後運用の幅を広げ、改良を重ね、円滑な医療連携を図っていきたい。

シンポジウム

テーマ：これからのクリニカルパスを考える

座長：住友別子病院 泌尿器科長 柴田薫行

四国がんセンター 副看護部長 野田奈々子

- ① 「DPC対応がん化学療法パスにおけるコメディカルの役割」
松山赤十字病院 薬剤管理指導課長 村上通康
- ② 「退院調整連携から地域連携パスを考える～看護師の役割とは～」
四国がんセンター 看護師 重岡 清香
- ③ 「継続看護に活かせるクリニカルパス パクリタキセル・ゲムシタビンのパスを用いて」
住友別子病院 看護師 和田桂子
- ④ 「当院におけるクリニカルパスの運用と患者満足度について」
市立宇和島病院 副看護部長 山本幸代
- ⑤ 「オーダーリングを使用した外来パスについて」
済生会松山病院 事務次長 林田哲也

演題発表形式

8分：口演

2分：質疑応答

*発表後はディスカッション形式

「DPC 対応がん化学療法パスにおけるコメディカルの役割」

松山赤十字病院

薬剤部 薬剤管理指導課長 村上通康

外来化学療法室 看護係長 山口育子

DPC 病院では、医療の質を保ったまま、在院日数の適正化、入院費用の削減等を考慮したクリニカルパス作成が必要である。今回、がん化学療法パス作成におけるコメディカルの関わりについて、FOLFOX 初回導入パスを例に報告する。従来 FOLFOX 療法は3日間の入院パスで実施していたが、DPC 包括化による薬剤費カバーのために最低5日間の入院が必要となった。現在は外来通院治療が基本だが、初回導入時は副作用の確認や患者指導で入院が必要なため、新たに7日間の導入パスを作成した。パス作成に対し、がん専門薬剤師として、抗がん剤および支持療法の適正使用を医療スタッフに提供し、がん薬物療法の質の確保と医療経営双方に貢献した。また、看護師は延長した入院期間中に外来通院移行をスムーズにおこなうための患者指導を充実させた。今後さらに、クリニカルパスによる医療の標準化、効率化を推進していくためには専門性の高いコメディカルの役割が重要となってくると考える。

「退院調整連携から地域連携パスを考える～看護師の役割とは～」

四国がんセンター 看護師 重岡 清香

現在、がん診療連携拠点病院では5大がんに対して、地域全体で患者や家族を支える体制作りが求められている。地域連携パスの運用にあたっては、パスそのものの中身のみならず、パスを活用するためのシステム作りやその調整機能が重要であると考えます。がんの患者様は常に病状が進行し状態が悪化するリスクを抱えながら生活を送っている。そのため連携を調整する場には、患者の病気と共に生活を考える看護師の役割は大きいと考えます。現在四国がんセンターでは、院内外の調整機能を相談支援・情報センターが行っており、その中心的役割を看護師が担っている。今後は多様化、高度化する医療、福祉に対応するため、病院の専門医、かかりつけ医、また看護や福祉に携わる他職種の者が各々の役割を認識し合い連携していく必要がある。現在の四国がんセンターの取り組みの紹介とともに、今後の院内・地域連携パスと看護師の役割について考えてみたい。

「継続看護に活かせるクリニカルパス

パクリタキセル・ゲムシタビンのパスを用いて」

住友別子病院

高橋玲子

和田桂子

当院は平成 17 年に、地域がん診療連携拠点病院指定を受け、院内にがんセンターを設立し、外来化学療法を開始した。近年の医療環境を取り巻く変化により、化学療法を受ける場を入院から外来に移行する患者が年々増加している。当院では化学療法開始時から、パンフレットを用いて指導を行っている。外来治療移行時は、看護サマリー等で病棟から外来へ情報提供を行い、外来スタッフが退院前に訪問指導を行う事で患者が安心して外来化学療法への移行出来る様に努めている。また、継続した医療・看護を行う為に、病棟・がんセンター外来情報交換会を定期的で開催している。

このような状況のもと、今回、我々は入院から外来を通じてパクリタキセル・ゲムシタビンの化学療法（医療者・患者用）パスを作成し、使用した。パス使用にあたりマニュアルを作成して標準化を図ったことと合わせて、パスを用いることにより、一貫性を持った医療・看護を提供することが出来、病棟・外来・コメディカル間のヒューマンネットワークの構築に有効であった。現在の運用状況と今後の課題を報告する。

「当院におけるクリニカルパスの運用と患者満足度について」

市立宇和島病院 副看護部長 山本幸代

当院では 2003 年 9 月から標準医療の提供やチーム医療の推進を目的に、クリニカルパス（以下パスとする）を導入し、現在 77 種類のパスを登録し運用している。しかし、診療科によって使用頻度の多いパス、少ないパスと様々である。パス作成時には患者の医療内容に対する理解を深める為に、医療者用・患者用の 2 種類を作成する基準がある。図解のある患者用パスシートを用いて説明することで、患者自身が検査や手術、術後の経過等、退院までの流れを理解し、安心して治療を受けることができると考え運用してきた。また、バリエーションコードを全パス共通として、バリエーション収集を行いパスの改訂をしている。しかし、患者の意見を参考にして患者用パスシートを改訂するまでには至っていない。今回現在使用している患者用パスが患者にとって理解され、満足されているのかを、調査すると同時に今後のパス作成や改訂の参考にし、患者満足度アップにつなげたいと考える。

「オーダリングシステムを使用した外来パスについて」

社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院
山本 昌也（医師） 林田 哲也（事務）

・外来パス必要性の検討

他院との外来単価比較結果により、診療内容調査実施

同じ疾患でも医師により検査等にバラツキがある

ガイドラインで示されている定期的に必要な検査等の実施漏れ → 医療訴訟時に敗訴の危険あり

DPC制度下で、外来への検査・画像診断移行傾向

外来収益増加による病院経営への貢献

紙運用ではチェックもれがある → オーダリングシステムとの連動を検討

・オーダリングシステムを使用した外来パスの取り組み (検討)

紙ベースでの作成

慢性疾患上位から開始する

「狭心症・高血圧症・高脂血症・脳梗塞・C型慢性肝炎・糖尿病」

疾患ごとに1年を1クールとして

(問題点)

長期間の来院予定日が不明

予約登録必要な検査等の対応

柔軟な変更が可能か？

(対応案)

パスを12分割し、月単位で管理する

適応開始は、翌月の来院予約日からとする

パス適応者がわかるようにオーダー画面で患者選択したときに表示する

現在何ヶ月目かわかるようにする

次月の予約日に次回のパスを選択する

パス使用していても、パス画面から、投薬・注射・検査等オーダーが簡単に実施できる

(注意点)

パスが12分割のため何も検査等ないときも月ごとのパスの入力が必要

* 8月運用予定のため、使用しながら改善予定

ポスターセッション(パス展示)演題番号表

No	病院名	展示パス名	演者氏名
1	住友別子病院	CAPDクリニカルパス	藤田 美鈴
2	住友別子病院	大腸ファイバーパス	金子 由紀
3	住友別子病院	脊柱圧迫骨折	三木(リハ)
4	四国がんセンター	胃切除における分岐型パスの活用	清水 あかね
5	四国がんセンター	Bev+FOLFOX6パスにおける継続看護の充実を目指して	岸田 恵
6	愛媛病院	呼吸リハビリテーション入院パス	梅木 夕里香
7	愛媛病院	心臓リハビリテーションクリニカルパス	高石 奈々
8	済生会 今治病院	PCI	井瀨 絵里
9	済生会 今治病院	大腿骨頸部骨折 地域連携パス	坂本 直美
10	西条中央病院	甲状腺切除クリニカルパス	小野 仁志
11	済生会 西条病院	Weekly タキソール	二宮 鯉江子
12	済生会 西条病院	悪性リンパ腫 R-Chop 21日	二宮 鯉江子
13	松山赤十字病院	抗血小板剤内服定期外来通院パス	神谷 真紀
14	松山赤十字病院	脳卒中用連携パス	神谷 真紀
15	松山赤十字病院	再発・進行大腸がん化学療法 mFOLFOX6	川添 導信
16	松山赤十字病院	食物負荷試験パス	日野 眞佐美

愛媛クリニカルパス研究会 世話人施設（順不同）

No.	世話人施設名	〒	住所	TEL	FAX
1	松山赤十字病院	790-8524	松山市文京町1番地	089-924-1111	089-922-6892
2	愛媛県立中央病院	790-0024	松山市春日町83	089-947-1111	089-943-4136
3	道後温泉病院	790-0858	松山市道後姫塚乙21-21	089-933-5131	089-933-5137
4	済生会今治病院	799-1502	今治市喜田村7丁目1-6	0898-47-2500	0898-48-5096
5	宇和島社会保険病院	798-0053	宇和島市賀古町2丁目1-37	0895-22-5616	0895-24-5838
6	住友別子病院	792-8543	新居浜市王子町3-1	0897-37-7111	0897-37-7121
7	済生会西条病院	793-0027	西条市朔日市字榎ヶ坪269-1	0897-55-5100	0897-55-6766
8	愛媛県立三島病院	799-0422	四国中央市中之庄町1684-2	0896-23-3345	0896-24-7741
9	愛媛県立南宇和病院	798-4131	南宇和郡愛南町城辺甲2433-1	0895-72-1231	0895-72-5552
10	愛媛大学医学部附属病院	791-0295	東温市志津川	089-964-5111	089-960-5131
11	愛媛病院	791-0281	東温市横河原366	089-964-2411	089-964-0251
12	市立八幡浜総合病院	796-8502	八幡浜市大字大平1番耕地638	0894-22-3211	0894-24-2563
13	市立宇和島病院	798-8510	宇和島市御殿町1-1	0895-25-1111	0895-25-5334
14	十全総合病院	792-8586	新居浜市北新町1-5	0897-33-1818	0897-37-2124
15	西条中央病院	793-0027	西条市朔日市804	0897-56-0300	0897-56-0301
16	愛媛県立新居浜病院	792-0042	新居浜市本郷3丁目1-1	0897-43-6161	0897-41-2900
17	石川病院	799-0121	四国中央市上分町732-1	0896-58-2222	0896-58-2223
18	愛媛労災病院	792-8550	新居浜市南小松原町13-27	0897-33-6191	0897-33-6169
19	愛媛県立今治病院	794-0006	今治市石井町4丁目5の5	0898-32-7111	0898-22-1398
20	四国がんセンター	791-0245	松山市南梅本町甲160	089-999-1111	089-999-1100
21	済生会松山病院	791-8026	松山市山西町880-2	089-953-3806	089-911-6801

愛媛クリニカルパス研究会会則

第1条（名称）

本会は愛媛クリニカルパス研究会と称する。

第2条（目的）

本会はクリニカルパスを使用した医療、つまり EBM を取り入れた医療の標準化、チーム医療、患者様中心の医療の実施を普及、啓発を目的とするものである。

第3条（構成）

1. 会員：原則として愛媛県内の医療従事者で本会の目的に賛同するものとする。
2. 世話人：会員の中から若干名の世話人を選出し、その中から代表世話人を選出する。
3. 会計監事：世話人の中から選出する。

第4条（事業および運営）

1. 研究会などの開催：本会の目的を達成するために原則として年2回の研究会および本会が必要と認める事業を開催する。
2. 世話人会：世話人会を南予、中予、東予の3ブロック構成で組織し、本会の運営にあたる。
3. 当番世話人：本会開催のための当番世話人は3ブロックの持ち回りとする
4. 会の開催にあたっては各ブロック内で決定した施設が行う。
5. 会計監事：本会の財務を監査するものとする。
6. 主旨に賛同する、団体、企業との共催は、世話人会の承認を得て、開催する事ができる。

第5条（事務局）

本研究会の事務局は独立行政法人国立病院機構四国がんセンターに置く。
事務局は世話人会の決定で変更できる。
会計は事務局が代行する。

第6条（参加費）

会への参加者は参加費として1,000円を納める。
参加費は会場費、通信費などに使用するものとする。

第7条（会則改正）

本会則の変更、会計監事の変更、事務局の変更、世話人の変更・追加は世話人会の決定で行うことができる。

付則

本会則は2004年3月20日より施行する

改訂：2009年7月